

世界		日本	
	1977	52	●第1回「死の臨床研究会」 ●「実地医家のための会」の医師たちが英国のホスピス訪問
●WHO「アルマ・アタ宣言」	1978	53	●柏木哲夫「死にゆく人々のケア」出版 ●桂病院の宮本茂充医師がブロンプトン・カクテルの臨床成績を報告
●米国で最初のエイズ患者発見	1979	54	
	1980	55	
●第34回世界医師会総会「患者の権利に関するリスボン宣言」	1981	56	●全国公私病院連盟「病院経営・管理の倫理、医の倫理」 ●聖隷三方原病院（浜松）に日本初のホスピス開所 ●厚生省初めて「晩期がん患者の精神的、肉体的苦痛緩和（ターミナルケア）研究」に助成金
	1982	57	●日本病院会「倫理綱領」
●米国大統領委員会「生命倫理総括リポート」	1983	58	●日本病院会「勤務医師マニュアル」 ●厚生大臣「生命と倫理に関する懇談会」（4月からスタート） ●「日本安楽死協会」が「日本尊厳死協会」と改称
●第35回世界医師会総会「ヘルシンキ宣言・修正」（終末期疾患に関するベニス宣言）	1984	59	●患者の権利宣言起草委員会「患者の権利宣言」（案） ●淀川キリスト教病院（大阪）に西日本初の病棟型ホスピス開設 ◇レベタン [®] 注〔塩酸ブプレノルフィン〕(3月)
	1985	60	●厚生省「生命と倫理に関する懇談会」の報告書 ●厚生省、日本エイズ患者第1号を確認
●世界保健機関『WHO方式がん疼痛治療法』を刊行	1986	61	●日医「生命倫理懇談会」発足（6月） ●日医「生命倫理懇談会」男女産み分けの報告書（9月）
●第39回世界医師会総会「マドリード宣言」（安楽死に関する宣言）	1987	62	●第1回「サイコオンコロジー学会」開催 ●国立療養所松戸病院に国立初の緩和ケア病棟開設 ●第1回「日本がん看護学会」開催 ●「ホスピスケア研究会」発足 ●厚生省「末期医療に関するケアの在り方の検討会」発足
	1988	63	●日医・生命倫理懇談会が「脳死と臓器移植」について最終報告（1月） ●第1回「日本生命倫理学会」開催
●第41回世界医師会総会「高齢者の虐待に関する香港宣言」	1989	平成1	●「エイズ予防法」施行 ●厚生省「末期医療に関するケアの在り方の検討会」が報告書発表 ●厚生省「ゴールドプラン」決定
	1990	2	●日医「生命倫理懇談会」が説明と同意についての報告（1月） ●山崎章郎「病院で死ぬということ」出版 ●緩和ケア病棟入院料新設 ◇レベタン [®] 坐剤〔塩酸ブプレノルフィン〕(6月) ◇MSコンチン [®] 錠〔硫酸モルヒネ〕(7月)

世界		日本	
	1991	3	●「全国ホスピス・緩和ケア病棟連絡協議会」発足 ●『ターミナルケア』誌（三輪書店）創刊 ◇アンベック [®] 坐剤〔塩酸モルヒネ〕(12月)
●第44回世界医師会総会「医師による自殺幇助に関する声明」	1992	4	●厚生省「脳死臨調」答申（1月） ●日弁連「患者の権利の確立に関する宣言」(12月) ●訪問看護ステーション発足
	1993	5	●ピースハウスホスピス（独立型）開設
●「ジュネーブ宣言」1994年修正	1994	6	
	1995	7	●第2回「国際サイコオンコロジー学会」開催 ●「日本臨床死生学会」創設 ●東海大事件・横浜地裁判決 ◇アンベック [®] 注〔塩酸モルヒネ〕(6月)
●「ヘルシンキ宣言 1996年南アフリカ修正」	1996	8	●第1回「日本緩和医療学会」開催
●米国オレゴン州尊厳死法施行	1997	9	●英国からシシリー・ソンドース来日
	1998	10	
	1999	11	◇カディアン [®] カプセル〔塩酸モルヒネ〕(11月)
	2000	12	●介護保険制度始まる（4月） ●日本ホスピス・緩和ケア研究振興財団設立
●オランダ，安楽死法を施行	2001	13	◇モルベス [®] 細粒〔硫酸モルヒネ〕(9月) ◇MSツワイスロン [®] カプセル〔硫酸モルヒネ〕(12月)
●ベルギー，安楽死法を施行	2002	14	◇デュロテップ [®] パッチ（リザバータイプ）〔フェンタニル〕(3月，現在発売中止) ●緩和ケア診療加算の新設（4月）
●WHO「緩和ケアの定義」の改訂	2003	15	●第5回アジア・太平洋ホスピス大会開催 ◇オプソ [®] 内服液〔塩酸モルヒネ〕(6月) ◇オキシコンチン [®] 錠〔塩酸オキシコドン〕(7月)
●WHO欧州部門「緩和ケア提言書(The Solid Facts: Palliative Care)」発行	2004	16	●「全国ホスピス・緩和ケア病棟連絡協議会」が「日本ホスピス緩和ケア協会」と改称
●米国緩和ケア国家プロジェクト(The National Consensus Project for Quality Palliative Care)「緩和ケア臨床実践指針(Clinical Practice Guidelines for Quality Palliative Care)」発行	2005	17	●川崎協同病院事件・横浜地裁判決 ●『ターミナルケア』誌名変更，『緩和ケア』に ●「個人情報保護法」施行 ●シシリー・ソンドース死去 ●山崎章郎医師「ケアタウン小平」開設 ◇ピーガード [®] 錠〔硫酸モルヒネ〕(3月)
●米国「テリー・シャイボさんの尊厳死」州裁判決に米上下院が連邦地裁の再検討を決議。連邦地裁は州判決を支持	2006	18	●在宅療養支援診療所制度新設（4月） ◇パシーフ [®] カプセル〔塩酸モルヒネ〕(4月) ●麻薬管理マニュアルの改訂（12月） ●「療養通所介護」制度新設 ●日本看護協会「訪問看護認定看護師」認定開始 ●「がん対策基本法」成立 ●「日本緩和医療薬学会」発足

世界		日本	
	2007	19	<ul style="list-style-type: none"> ●「がん対策基本法」施行 ●日本看護協会「ホスピスケア認定看護師」→「緩和ケア認定看護師」に名称変更 ●「緩和ケア医養成プログラム (PEACE)」開発 ●緩和ケア普及啓発活動「Orange Balloon Project」開始 ◇オキノーム[®]散〔塩酸オキシコドン〕(2月)
●英国 NHS (National Health Service 「終末期ケア戦略 (End of Life Care Strategy)」発表, この中で Gold Standards Framework (GSF) 公的に導入	2008	20	<ul style="list-style-type: none"> ●「緩和ケア普及のための地域プロジェクト (OPTIM)」発足 ●「緩和ケア診療加算」点数見直し (300点) ◇デュロテップ MT[®]パッチ〔フェンタニル〕(7月)
●米国緩和ケア国家プロジェクト「緩和ケア臨床実践指針」第2版発行	2009	21	<ul style="list-style-type: none"> ●「緩和ケア病棟入院料」届出受理施設が200施設を越える ◇フェンタニル[®]注〔クエン酸フェンタニル〕(11月, フェンタネスト[®]注から商品名変更)
	2010	22	<ul style="list-style-type: none"> ●日本緩和医療学会「緩和医療専門医」認定開始 ●「緩和ケア診療加算」点数見直し (400点) ●PEACE 研修修了者 20,124人 (2010.12) ●日本緩和医療薬学会「緩和薬物療法認定薬剤師」認定開始 ◇フェントス[®]テープ〔クエン酸フェンタニル〕(6月) ◇トラマール[®]カプセル〔塩酸トラマドール〕(9月)
●WHO 欧州部門「高齢者に対する緩和ケア提言書 (The Solid Facts: Palliative Care For Older People: Better Practices)」発行	2011	23	<ul style="list-style-type: none"> ◇ワンデュロ[®]パッチ〔フェンタニル〕(2月) ◇トラムセット[®]〔塩酸トラマドール/アセトアミノフェン配合錠〕(7月) ◇ノルスバン[®]テープ〔ブプレノルフィン〕(8月)
	2012	24	<ul style="list-style-type: none"> ●「緩和ケア病棟入院料」入院初期の評価の充実 (30日以内 4791点/日, 60日以内 4291点/日, 61日以上 3291点/日の3区分に) ●「外来緩和ケア管理料」新設 (300点/月) ●医療用麻薬処方日数制限の緩和 (コデインリン酸塩等4製剤について14日から30日処方可能に) ●「診療所に対する在宅ターミナルケア加算 (10000点)」を「ターミナルケア加算 (機能強化型在宅療養支援診療所 6000点等)」と「看取り加算 (3000点)」に分割 ●「有床診療所緩和ケア診療加算」新設 (150点/日) ●「緩和ケアに関する在宅患者訪問看護・指導料 (医療機関の専門性の高い看護師による訪問の評価)」新設 (1285点) ◇オキファスト[®]注〔塩酸オキシコドン〕(5月) ◇メサペイン[®]錠〔塩酸メサドン〕(3月) ◇イーフェンバックル[®]錠〔クエン酸フェンタニル〕(9月) ◇アブストラル[®]舌下錠〔クエン酸フェンタニル〕(12月)
●米国緩和ケア国家プロジェクト「緩和ケア臨床実践指針」第3版発行	2013	25	<ul style="list-style-type: none"> ◇アブストラル[®]舌下錠〔クエン酸フェンタニル〕(12月) ◇塩酸タベンタドール (発売予定)
	2014	26	